

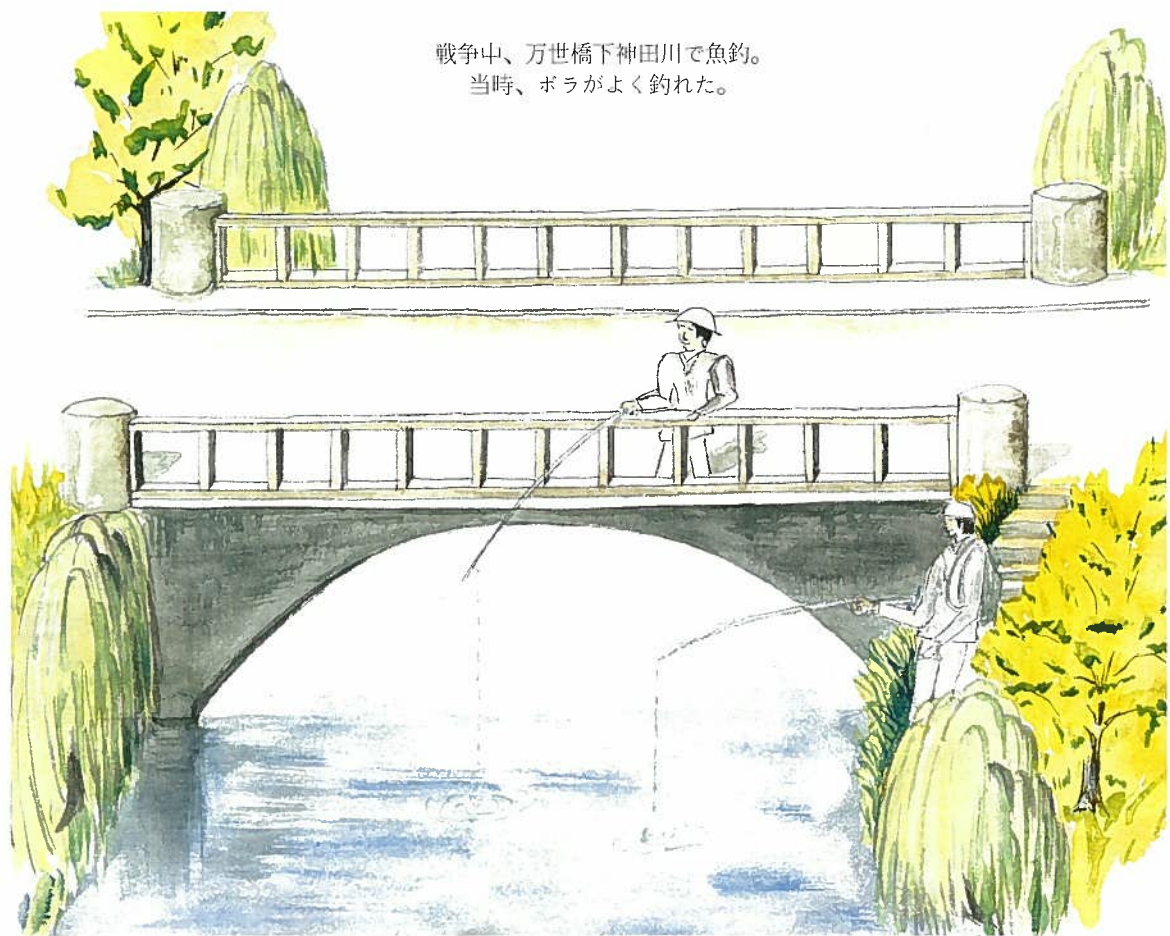
## 『秋葉原の語源』

江戸時代、下級武士の居住地域であった現在の秋葉原電気街界隈。「火事とケンカは江戸の華」と言われた様に、ここ秋葉原も火事が絶えませんでした。一八六九年（明治二年）相生町の壊滅的な大火災を機に、東京府は火除地の設置を決定。遠州（現在の静岡県）から日除けの神「秋葉大権現」を勧請、当地に鎮火神社を建立しました。当時は鎮火原と呼ばれていましたが、後に鎮火神社と改められ、「秋葉原（あきはばら・あきっぱばら）」と呼ばれる様になりました。現在の「あきはばら」という読み方は、明治二十三年に開設された秋葉原駅（あきはばら）から次第に定着していきました。

電気街の大部分と秋葉原駅は千代田区神田

にあります。秋葉原という地名は台東区松が谷にあります。

「かつて駅周辺には神社があり、移転した事もあってか、駅内に大きな神棚がありました。私も数回出席したことがあります。」



戦争中、万世橋下神田川で魚釣。  
当時、ボラがよく釣れた。